

短歌 技法 ①

年 組 名前 ()

短歌に使われる①～⑩の技法を意味・例を参考にして書き入れなさい。

意味

例

① 隠喩

↓
たとえるときに「ようだ」などを用いない。

例
ガラスの心

② 倒置法

↓
語順を逆にして意味を強める。

勉強する、国語を。

③ 直喩

↓
たとえるときに「ようだ」などを用いる。

②①
雲のようだと「目覚めるように」

④ 字足らず

↓
基本の音数より少なくする。

雲のようだ(六音)が、
結句(最期の句)だとすると、
七音なので一字足りない。

⑤ 五・七・七・五

↓
短歌の基本形式。この順に並べる。

五句三十一音が基本
始めが「初句」(しよく)
終わりが「結句」(けつく)

⑥ 体言止め

↓
文の最期を体言で終わらせることで、感動を強める。

②①
秋の夕暮れチ

⑦ 擬人法

↓
人でないものを人にとえて表現する技法。

②①
空がほほえむ
大地がどよめく

⑧ 対句

↓
似た構成の言葉を並べ、リズムをつくる。

②①
山は大きく、人は小さい。
青い空、白い雲

⑨ 字余り

↓
基本の音数より多くする。

大地がどよめく(八音)が、
結句(最期の句)だとすると、
七音なので一字余る。

⑩ 反復法

↓
同じ言葉を繰り返すことで、強調したり、リズム感を生み出す。

②①
ゆっくりとゆっくりと
右に右に右に

10点×10
/ 100

得点

短歌 技法②

年 組 名前 ()

10点×10

短歌に使われる技法と、意味の組み合わせが正しくなるよう
カツコにアコを書き入れなさい。

意味

ア 倒置法

(ウ)

似た構成の言葉を並べ、リズムをつくる。

イ 擬人法

(ケ)

たとえるときに「ように」
「ようだ」などを用いない。

ウ 対句

(コ)

短歌の基本形式。
三十一音をこの順に並べる。

エ 字余り

(オ)

同じ言葉を繰り返すことで、
リズム感を生み出す。 強調したり、

オ 反復法

(エ)

基本の音数より多くする。

カ 体言止め

(キ)

たとえるときに「ように」
「ようだ」などを用いる。

キ 直喩

(イ)

人でないものを人にたとえて表現する技法。

ク 字足らず

(ク)

基本の音数より少なくする。

ケ 隠喩

(ア)

語順を逆にして意味を強める。

コ 五・七・五

(カ)

文の最期を体言で終わらせることで、
感動を強める。

得点 /100

短歌 技法③

年 組 名前 ()

10点×10

短歌に使われる技法と、例の組み合わせが正しくなるよう
カッコにアッコを書き入れなさい。

例

ア 倒置法

(キ) まるで雲のようだ。

イ 擬人法

(エ) 結句（最期の句）を8音にする。

ウ 対句

(イ) 太陽が吠える。

エ 字余り

(ア) カバンに入れる、教科書を。

オ 反復法

(オ) 走る、走る、走る。

カ 体言止め

(コ) 三十一音が短歌の基本形式。

キ 直喩

(ク) 結句（最期の句）を6音にする。

ク 字足らず

(ケ) ガラスの心

ケ 隠喩

(カ) 忘れはしない夏の青空。

コ 五・七・五

(ウ) 夜は寒く、昼は暖かい。